

《 審判上の確認 》

- 1 本大会は、2026年度(公財)日本バレーボール協会6人制ルールの取り扱い及び2026年度(公財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部における6人制ルールの取り扱いによる。ただしネットの高さは男子2.30M、女子2.15Mとする。給水のためのタイムアウトを採用する。
- 2 設定時間の11分前にプロトコールに入る。ただし、前の試合が長引いた場合は、コート準備ができ次第プロトコールに入る。
- 3 公式練習への参加は、有効にエントリーされたチームメンバー以外は認められない。公式ウォームアップは、6分間とする。どちらかのチームが相手チームとは別にネットを使用したウォームアップを要求した場合は、各3分間ずつ行うものとする。その際、ネットを使用しないチームは、ネットを使用するチームの練習を妨げてはならない。
- 4 各コートには、ウォームアップエリアを設ける。ただし、エリア内でのボールの使用は禁止する。
- 5 セット間は、フリーゾーンでのボールの使用を認めるが、隣のコートの妨げにならないように注意し、パスとする。
- 6 競技参加者は、レフェリーだけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。スポーツマンとしてふさわしくない行為をしない(相手チームに向かってのガッツポーズなど)。
- 7 リベロの取扱いは、令和5年付けの「(公財)日本中体連における『リベロリプレイスメント』の変更についての付則」に準ずる。
- 8 すべての試合をワンボールシステムで行う。コート外に転がったボールは速やかに拾いに行くこと。また、およそ8秒のテンポでサービス許可を行うため、次のサーバーは、相手からの返球を待たずにサービスゾーンに移動し、ボールを待つこと。試合中のボールの交換は、選手が審判に申し出る。
- 9 コートワイピングは、原則としてコート内の選手がスモールタオルで行う。柄付きモップの使用は、タイムアウト、セット間及び審判員が危険と判断した場合のみ許可する。スモールタオルは、全選手が着用すること。
- 10 タイムアウトは、監督が「ハンドシグナルを明確に示して」要求する。
- 11 各セット開始前にコート内でハドル(円陣)を組む場合は、スターティングリベロを含めた7名までとし、ポジション確認後は速やかにゲームを始められるようにする。なお、ファーストラリーでリベロをコートに入れない場合は、リベロをサイドライン付近に立たせる必要はない。